# 毒憩室









臓器表面が袋状に膨れ上がった症状。トリーティ (28ページ)と呼ばれるギルスが作り出すもので、一定 時間で破裂して毒素をばらまく。毒憩室は、同色の血 清を投与して非活性化させたあと、切り抜いて摘出、 人工膜で傷痕を治療するという術式で処置する。血 清の効果切れと摘出失敗が評価を下げる対象となる ので注意しておこう。なお、致命的ではないが、憩室 をひとつずつ処置していると、3つ目の毒憩室が破裂し てしまう可能性がある。血清投与から切開までをすべ ての憩室に行なってから摘出といった手順を取ろう。

## ●毒憩室の手順

- 注射器 ……同色の血清を投与
- ピンセット ……切開した毒憩室を摘出

### ○評価・判定ポイント

- ・血清の効果が切れるまえに切開
- ・摘出時にミスなし



11注射器 SYRINGE

同色の血清を毒憩室に投 与すると切開のガイドライ ンが表示される。効果が 切れるまえに切り取ろう。



④ピンセット **FORCEPS** 

毒憩室摘出後の傷痕は、 腫瘍摘出の術式と同様に 人工膜を移植し、ヒールゼ リーを塗布してふさぐ。

# 臓器移植

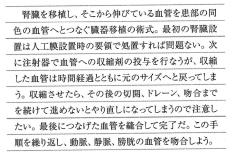






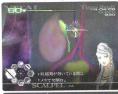






### ●臓器移植の手順

- ピンセット ……移植臓器を所定の位置に設置
- ◎ ▶ 注射器 ……血管に収縮剤を投与
- ③ ✓ メス………収縮した血管を切開
- ◎ ◇ ドレーン ……切開部の血だまりを吸引
- ⑥ 分針と糸 ……吻合した血管を縫合



#### 2 注射器 SYRINGE

投与量に応じて血管は縮 み、一定量で最小になる。 最小時のみ切開のガイド ラインが表示される。



### 3メス SCALPEL

切開が完了するまえに、 ガイドラインが消えてしま った場合は、収縮剤の投 与からやり直しになる。



### 6針と糸 STITCHES

吻合部を覆うように縫合 を行なう。失敗の表示は されないので、成功するま で縫合し続けよう。

# キリアキ













臓器内に潜み、裂傷を生み出すギルス。エコーで探 知したあと臓器表面に露出させ、レーザー焼却で殲滅 していこう。キリアキは直線移動を行なっているので、 探知後に移動する直線上で待ち構えて本体の影を切 開すれば、すばやく臓器表面に出すことができる。まず はこの手順を修得したい。その後レーザーを数回照射 すれば焼却完了だ。なお、ひとまわり大きなキリアキマ ザーは、エコー探知とメスでの露出を何度か繰り返し、 レーザー照射をし続ければ倒すことができる。

### ●キリアキの手順

- スキャナ……エコー機能でキリアキを表示
- 🕖 🔪 メス………キリアキ表面の患部を切開
- む レーザー……切り出したキリアキを焼却
- 分針と糸 ……出血線の縫合
- ⑤ ≥ 注射器 ……バイタルの回復
- 🜀 🥏 ヒールゼリー …切り傷の治療



#### 2メス SCALPEL

臓器内に潜っているキリ アキをメスで露出させた ら、レーザーへと切り替え てすぐさま照射。



# の針と糸

キリアキが作った出血線 は、合間をみてすばやく縫 合すること。バイタルの低 下を未然に防ごう。



# SYRINGE

殲滅させたあとは、次のキ リアキに備えて、出血線の 縫合と同時にバイタルも 回復させておこう。

# デフテラ













自身の遺伝子を無限に複製し、ギルス性腫瘍を生み 続けるギルス。色違いのデフテラは、接触すると互いを 侵食しようと試みるが、その瞬間が処置のチャンス。接 触中に細胞質を吸引し、これを繰り返して硬質化させれ ば切除が可能だ。なお、ガイドライン表示中はバイタルが 大幅に減少する。このときにバイタルが低すぎると、手術 失敗もありえる。そうならないために最も優先すべきは、 デフテラの生み出すギルス性腫瘍をいち早くレーザーで 焼却し、バイタル低下を抑えておくことである。

## ●デフテラの手順

- ~ レーザー……デフテラが生み出す腫瘍を焼却

- ⑤ / ピンセット ……切開痕に人工膜を設置



#### ②ドレーン DRAIN

同色で合体した場合は、 細胞質の吸引ができない。 その際は併発している腫 傷の焼却を行なおう。



### 日メス SCALPEL

細胞質吸引を3度行なうと 硬質化。回数を覚えておけ ば、メスへの器具変更タイ ミングが事前にわかる。



# ⑤ピンセット

デフテラが2対の場合、駆 除した1対への人工膜は 後回しにし、バイタル回復 や腫瘍焼却を優先する。